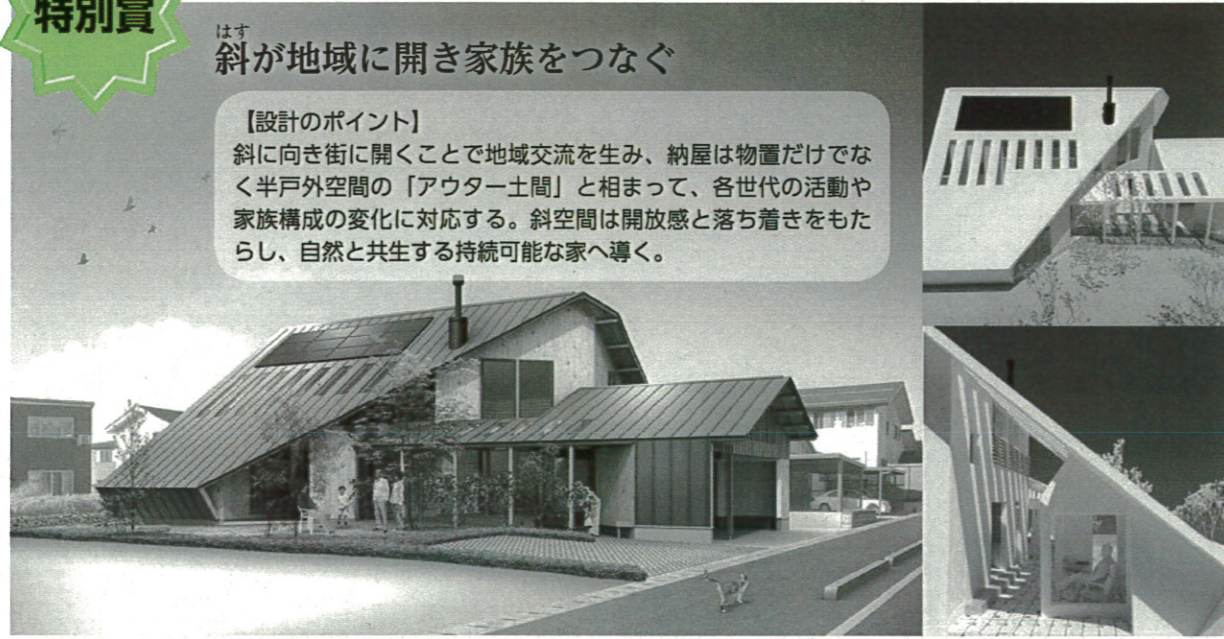


特別賞

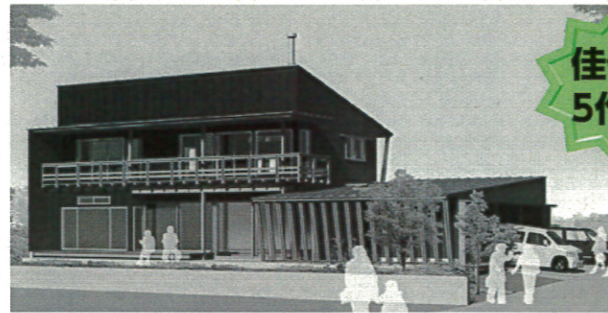
はす  
斜が地域に開き家族をつなぐ

【設計のポイント】

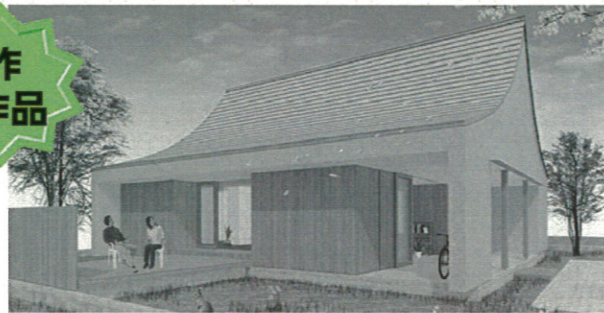
斜に向き街に開くことで地域交流を生み、納屋は物置だけでなく半戶外空間の「アウター土間」と相まって、各世代の活動や家族構成の変化に対応する。斜空間は開放感と落ち着きをもたらし、自然と共生する持続可能な家へ導く。



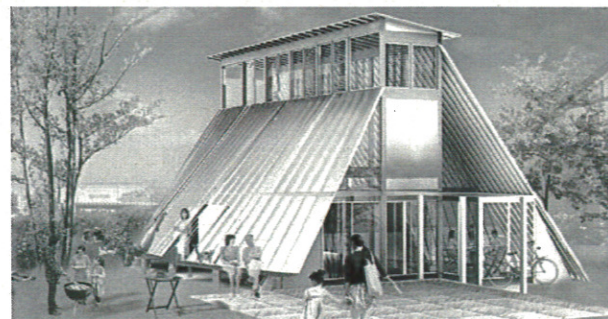
佳作  
5作品



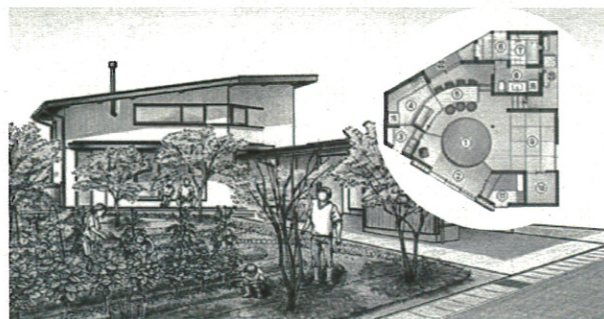
↑①きたまち ゆきやらいの家



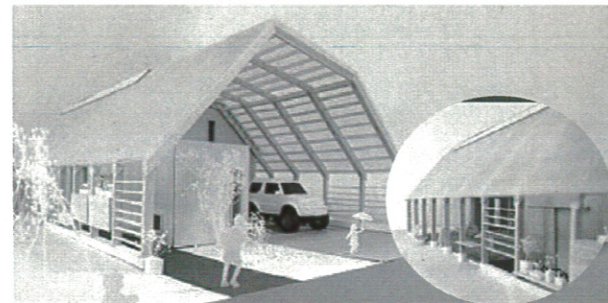
↑②村山のいえとそと室



↑③暖かい雪の家



↑④融和する家



↑⑤ガンギフレームのいえ

設計を利用し新築する方へ助成します

入賞した設計コンセプトを利用し、市内に新築する方には、設計費の2分の1（最大150万円）を助成する予定です。

入賞作品の閲覧や助成の詳しい内容については、お問い合わせください。

大賞

「さんかくやね」が  
包み込む家

【設計のポイント】

- ①屋根の上に雪をためず、四隅に雪が落ちる屋根形状。雪をためる箇所を分散することで冬にも安定した採光を得ることができる。
- ②個室を最小限の大きさにし、共用部分を最大限確保する。家具のレイアウト等により自在に個室空間の範囲を変えることができる。
- ③構造的に最も安定するとされる三角形のフレームの組み合わせで構成しており、耐震的にも経済的にも効率が良い。



村山市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略「住みたい、帰りたい、ひと」を増やそうの一環として、第2回村山の「あんばい・いい家」設計コンペを行いました。

今回募集した設計コンセプトは、「経済性」と「環境への配慮」のバランスが良い「雪を考えた住宅」で、将来的に三世帯同居が可能な「世代循環ができる家」、さらに、若い世代がデザインや設備、施工費などで「魅力を感じる効率的な住宅」としました。

コンペには、全国から137点の作品登録があり、11月22日に一次審査を実施。審査を通過した15点の中から、1月15日に実施した最終審査会で大賞、特別賞ほか5点の入賞作品を決定しました。

入賞者（敬称略）

■大賞 平野有良（東京都）

■特別賞

・秋葉アトリエ+山形大学学生

秋葉圭史、田中秀幸、丹野玲奈、熊坂和則（山形市）

■佳作（番号は次ページの作品番号と同じ）

①（有）柴崎浩一設計事務所 柴崎浩一（村山市）

②一級建築士事務所 Panda 井上恵一、堀真美（京都府）

③稲吉建築企画室（茨城県）

④酒井秀幸建築設計室（新潟県）

⑤西日本工業大学 三笠研究室（福岡県）

三笠友洋、砂川京介、竹割拳志、田庭秀樹、津川七海、宮吉早紀、山城将仁、吉岡立峰、吉田茜、吉田郁乃

雪を考え、三世帯同居が可能な若い世代が魅力を感じる住宅

第2回村山の「あんばい・いい家」大賞決定

■問合せ／政策推進課地方創生係  
☎内線 274